（左）全世界の受賞者31名とプルデンシャル本社前で記念撮影（アメリカ24名※、日本2名、中国2名、インド1名、ブラジル2名）
（右上）自由の女神と一緒に、濱田さん（左）と菊地さん（右）
（右下）インターナショナル（日本、中国、インド、ブラジル）受賞者の集合写真

Vスピ米国ボランティア親善大使　4年ぶりにアメリカ現地で表彰式に参加

4月22日～25日に、2022年度に開催された「Prudential Emerging Visionaries 第26回ボランティア・スピリット・アワード（Vスピ）」で米国ボランティア親善大使に選ばれた、濱田（はまだ） 颯太（そうた）さん（現在大学１年生/受賞時高校３年生）、菊地（きくち） 真莉佳（まりか）さん（現在高校３年生/受賞時高校２年生）が、アメリカで開催された「Prudential Emerging Visionaries 全米表彰式」に参加した。

インターナショナルの受賞者が全米表彰式にリアル参加するのは4年ぶり。日本から2名、中国から2名、インドから1名、ブラジルから2名の計7名が招待され、アメリカの受賞者含め計31名が4日間の日程で交流を深めた。

プログラムは、互いの理解を深めるアイスブレイクから始まり、自らのルーツを振り返りこれまでのストーリーを発表するワークショップや、チームビルディング、Financial Healthを考えるセッション、現地プルデンシャルの社員有志に活動の相談をおこなうセッションなど多岐にわたり、受賞者はこれからの世界を変えていく“Changemaker”として多くを学んだ。表彰式ではチャーリー・ラウリー会長が登壇し、「皆さんの創造性、イニシアチブ、寛大な精神、忍耐力に感銘を受けました」と全員を称え、各国の受賞者にトロフィーを渡し、固く握手を交わした。

プログラムにはニューヨーク観光も含まれ、タイムズスクエアのビルボードに受賞者全員の顔写真と名前が順番に表示されるサプライズもあった。思いがけない経験に受賞者は目を輝かせ、「一生の思い出になった」と笑顔を見せた。

4日間をともに過ごした仲間と別れる際には、涙を見せる受賞者も。「周囲が活動に理解を示してくれず自信を失った時もあったが、ここの皆は私を肯定して褒めてくれた。これからも活動を続けたい」と、決意を新たにしていた。

※2022年に「Spirit of Community」から「Prudential Emerging Visionaries」に名称変更された際、アメリカでは表彰制度にも変更があり、FINANCIAL SOLUTIONS部門5名、SOCIETAL SOLUTIONS部門20名の計25名が表彰式に招待された。

表彰式でトロフィーを受け取った受賞者

タイムズスクエアの広告を笑顔で見上げる受賞者

現地プルデンシャル社員との交流セッション

人生初の海外渡航となった濱田さんは「表彰式でトロフィーをラウリーさんからいただき、その重さを感じたときに、今まで自分がしてきたこと、保護者や関係者の顔が浮かんだ。1人で成し遂げたわけではない。だからこそ多くの人に日々感謝しないと…と感じた」、アメリカ渡航は初めてという菊地さんは「受賞者は皆バックグラウンドが違っていて、プロジェクトが個性的で話をしていると興味が湧いた。同じ国の人であっても、違う問題に目を向けていて、よりよい世界をつくることに力を入れていることがわかった」と感想を語った。

今年も6月1日より第27回Vスピの応募が開始しており、来年2024年に渡米予定の米国ボランティア親善大使は、12月17日(日)にハイブリッドで開催される全国表彰式で発表される。

＜受賞活動内容＞

コロナ禍で自身の家の経済状況が変わり苦しい思いをしたことにより、子どもの教育格差問題に関心を持った。親の収入や生まれた地域などの環境が根深い教育格差の要因であることを知り、出自が子どもたちの個性や将来性を奪うことがあってはならないと考え、行動を起こすことを決意した。『学生団体 Get CHANCE』を立ち上げ、経済的な理由で塾に通えない学生などを対象にした無料塾「オンライン塾GET」の運営や、各分野の専門家を招く無料講演会「人生の授業CHANCE」の開催をおこなっている。

11歳で日本に帰国して、ボランティアをおこなう中で、自分だけができること、得意なことを考え、地域の英語教育の平等性を目指す活動を始めた。小さい頃から英語に触れ、多くの情報を得て自分の将来の選択に繋げてほしいと考え、地域の子どもたちと季節のイベント等に合わせて、英語の絵本を一緒に読むイベントを開催している。自らのスキルアップや英語スピーチコンテストへの挑戦、SNSでの広報、出版社やメディアのサポートを目指したPRなどで団体をリードし、活動を拡大している。